



2019年4月
第43号

発行責任者
首都圏段戸会
会長
福山 透
編集者
広報担当
織田 利彦

第46回 総会・懇親会報告

高53回 辻内 直子

雨上がりの澄んだ空気の中、2018年10月27日、アルカディア市ヶ谷にて第46回首都圏段戸会が開催されました。岡崎からは竹下校長先生、細井岡高同窓会長が駆けつけてくださり、出席者は首都圏在住者を中心に191名を数えました。首都圏段戸会の特徴の一つに参加者の年齢層の幅広さが挙げられますが、今年度も、80代から昨年高校を卒業したばかりの大学生まで、幅広い層の参加者で賑わいました。

招聘恩師としてご出席いただいた鈴木



細井土夫岡高同窓会長



竹下裕隆学校長

野庁長官を務められた高27回沖修司さんが「都市における木材利用の拡大に向けて」というタイトルで、国内の森林資源いかに活用していくかについて講演されました。毎年恒例となっている講演会では、様々な業界の第一線で活躍する卒業生を

陸男先生（英語）、尾崎誠司先生（化学）、大島一嗣先生（数学）のお三方は、近況や岡高時代の思い出をお話してくださいました。様々なエピソードに笑いも起きました。会場は温かい空気に包まれました。私自身は直接ご指導を受ける機会がなかった先生もいらつしやいましたが、「岡高」という文化を共有しているためか、どの先生のお話も高校時代に戻ったような懐かしい気持ちできかせていただきました。

総会の中で開催された講演会では、林



鈴木陸男先生



尾崎誠司先生

同級生との旧交を温める人や、世代の壁を超えて交流の輪を広げる人など、参加者それぞれに楽しんでる様子でした。総会の開始時には緊張した面持ちで会場に入る人の姿も見られましたが、懇親会の最後に全員で校歌を歌う頃には、すっかり打ち解けて笑顔になり、次回の再会を約束する姿が多く見られました。この会に参加すると、自分にとって岡高は単なる過去の通過点ではないということを実感します。岡高で過ごした3年間が現在の自分の基礎を形作る貴重な時間であったことは言うまでもありませんが、それだけにとどまらず、岡高とのか

講師にお迎えしています。わかりやすい解説や当事者しか知らない裏話などをきくことができ、参加者の楽しみ方の一つとなつていきます。また、岡高卒業生の活躍が多方面にわたつていふことを知ることができ、良い機会でもあります。



講演 沖修司さん（高27回）



大島一嗣先生

かわりは卒業後も育ち続けているように思います。卒業後何年経っても「岡高の卒業生である」という共通点によって集まり、世代の壁を超えて刺激を与え合うことができる多くの仲間がいることは、とても大きな財産なのではないでしょうか。次回の総会は2019年10月26日（土）に開催されます。皆様、お気軽にご参加ください。

第47回首都圏段戸会総会・懇親会予定

〔日時〕 2019年10月26日（土） 13:00~17:00
〔場所〕 アルカディア市ヶ谷（私学会館）……JR、地下鉄 市ヶ谷駅から徒歩2分

古希年次代表の一言

高19回 都築 正行

お招き頂き、ありがとうございます。参加の同期は19名。当日それぞれに一言書いて貰ったので、その報告(卒業時の名簿順)で、お礼とさせて頂きます。丸山さん 一瞬であの頃に。一年一度では少ない。

竹内(鶴田)さん 参加する度に懐かしい顔に出会い元気を貰えます。則竹(永田)さん 古希を元気で迎え、懐かしい仲間と集え、感謝。

福島さん 卒業アルバム。古希の風。中島(小島)さん 再会が毎年楽しみ。敏が増え髪が薄くなっても会って話せば高校時代。

近藤(陽)さん 東京で岡崎を感じられ感謝。遠藤(大山)さん 長期間日本を留守に。落ち着いた生活を送れる事になり昔の仲間が懐かしい。

岩瀬さん 浜松から初参加。懐かしい方々に会えました。岡部さん 世話人のお陰で長い間参加をさせて頂き、感謝!

宮崎さん 高校の頃は古希は想像もできませんでした。が、いつの間にかそんな年に。

村木さん 健康であることが最高の「友情」表現。

石樽(足立)さん 皆様に会え嬉しかった。健康で参加でき



古希年次参加者 (筆者は左端)

る事が大事。

宍倉(中西)さん 後をふり返らず、今が最高だと日々楽しく過ごしたい。

時田(後藤)さん 数年振りに出席。まだ現役。気は若い、頭は薄く。

野澤さん 気付いたら古希。まさに光陰矢の如し。

福山さん 古希で普段顔を合わせる事の無い連中が集まってくれ嬉しい。

安藤(昭)さん 世話人のお陰で毎年楽しく出席。感謝!

鈴木(好)さん 先輩のお元気な姿を見るとまだ駆け出し。後10年、頭と体力維持に努めます。

総会出席者の一言

高13回 本多 正之

70歳も半ばを超えと色々な集まりがあるが、首都圏段戸会総会は最も楽しみにしている会である。ただ、今年には例年に比べやや参加者が少なかったかな、という印象を受けた。

さて、今年の前林野庁長官・沖修司氏の講演は面白かった。「前」と言っても夏まで現役であられたのだから、お話に臨場感があった。日本全国の森林が結構深刻な状況にあることはともかく、一方で木材が結構な輸出産業になっているというところは意外であった。ただ、時節柄木造のオリンピック会場の話をもう少し聞いてみたかった思いはある。

懇親会では同期の仲間と昔話に花を咲かすことも楽しみだが、段戸俳句会に参加している小生は、普段はネット上のやり取りだけの人達と、会場で会話を交わすことができるのも、もう一つの楽しみでもある。また自分とは全く異なる実社会でご活躍の、世代を超えた方々と交流出来る機会をいただけることも有難い。



筆者は中央

この会もいろいろな試行錯誤の結果、現在の在り方になっていくわけで、今までご活躍いただいた役員や世話人の皆さんには感謝に堪えません。

ところでここで一つ提案があります。「段戸ラッキー籤」をやってみませんか。商品は首都圏のみならず、岡崎をはじめ全国の同窓生から募り、提供者のお名前は会報で報告する。これにより全国の同窓生との新しい結びつきが期待できるかもしれませんし、参加者には楽しみが増えることでしょう。

高23回 野々山 浩

第46回首都圏段戸会で初めて司会を務めた高23回野々山です。福山新会長から「おじさん新司会者」と命名いただき、大変光栄に思っています。

これまでは会計担当のため、総会当日は会計報告のみで、総会・講演会・懇親会の時間にはほとんど会場に参加できず、全体の流れを十分に把握できないまま当日を迎えました。それでもなんとか無事に終えることができたのは、アシストいただいた井上さんをはじめみなさんのサポートのおかげだと、感謝しております。

講演会は、前林野庁長官の沖修司さん(高27回)による「大



筆者の活躍として司会

都市における木材利用の拡大に向けて」で、大変勉強になりました。このお話がきっかけとなり、最近では安藤広重・葛飾北斎等の作品を観るときに、描かれた山の様子を注視するようになりました。講演要旨はつぎの通り。

- 大東亜戦争時の空襲、燃料不足のため、日本の山はハゲ山となった。

- 木材は貴重な燃料のため、江戸時代の風景画でも日本の山はハゲ山。

- 木材を切り出し運搬できる山道(仕組み)がないため、森林資源を有効に活用できていない。

- 海外では、木造18階建てのビルを9週間で建てられる工法がある。

懇親会では、たくさんの方々若者と語り合い、活力をいただくことができ、先輩からは「学士会」へのお誘いも受けました。

また、2年ぶりにコーラス部がNHK全国学校音楽コンクール全国大会に出場され、見事「銅賞」を獲得しました。首都圏段戸会を通じて入場整理券をいただいたおかげで、会場で応援することができ、近藤先生とお話することもできました。感謝です。

今後世話人を楽しんで参ります。よろしく!

高38回 柴田 哲良

随分前から存在を認識していながら参加を躊躇していた首都圏段戸会総会ですが、四年前に初参加して以来、毎年参加するようになりました。平成最後となる今年の総会は、受付をした瞬間に同期の世話人から本稿の執筆を依頼され、なんとなく落ち着かない感じで会に臨みました。

総会の議事に引き続き講演会。参加し始める前は、正直言ってあまり興味を持ってなかったのですが、回を重ねるうちに



筆者は左側

同窓の方々からいろいろなお話を伺えるこの機会に面白さを覚えるようになってきました。今回も前林野庁長官の沖修司さんのお話を伺い、地球温暖化防止等の環境保護や森林資源の有効活用などについて認識を新たにすることができました。

懇親会では同じ学校の出身というだけで各界の様々な方と交流できて有意義だとおっしゃる方が多いですよ。とは言っても若輩者としてはそう簡単には幅広く交流の輪を拡げられていません。毎年お目にかかる年次の近い先輩方々との交流をきっかけにして、少しずつ縁を拡大中といったところです。今年も、総会懇親会に引き続き、同窓生である現教頭先生を含む先輩後輩の皆さんと二次会・三次会まで、時間の過ぎるのも、本稿の執筆のことも忘れて盛り上がり、終電間際の帰宅となりました。

以前の私と同じく参加を躊躇している方、一度参加してみると何か思わぬ発見ができるかもしれませんよ。年号が改めてから初となる次の総会・懇親会に、参加を考えてみませんか。

高47回 岡田 望

一学年上の水泳部の先輩（朝岡さん、大川さん）が世話人をされておられ、首都圏段戸会の存在は知っていたのですが、今回初めて参加させて頂きました。参加者は年配の方から若い方まで幅広く、かなりの盛会でした。そんな中、高校の学年主任でいらっしやった川喜田先生や、

水泳部の一つ上の渡辺先輩が参加されており、期せずして再会できたのはとても嬉しかったです。（先生が岡高の先輩だったと初めて知りまして！）同期では世話人の杉本さん、佐藤さん、天野さんが参加されており、高校時代は面識がなかったのですが、共通の友人の話を聞きながら楽しく過ごすことができました。会の最後には全員での校歌斉唱。覚えていたものですね。（先の女性二人は歌詞を間違えていました笑）私は現在、文京区本郷で飲食店（味噌煮込みうどん専門店）を営んでいるのですが、世話人の杉本さんは四谷三丁目まで、さらにラグビー部の矢田くんが自由が丘でタイ料理屋を営んでいることが判明。後日談ですがその日のメンバーで忘年会を企画し、矢田くんのお店で20人超の同期会に繋がりました。段戸会参加がきっかけで俄かに旧交が温まりました。次回は大勢の高47回生で参加出来たら幸いです。



筆者は右端

高54回 岡田 尚博

大学在学中から参加していたことを考えると、首都圏段戸会の総会への出席頻度は同年代と比較してもかなり高い方だと思えます。20代の頃から同じく高54回の数人とともに世話人となり、ここ数年は恩師招聘担当をさせて頂いております。過去に実施したアンケートをもとに今年3名の恩師をお招きしましたが、私が先生方へ連絡することになっていまし

尾崎誠司先生は参加を快諾頂きましたし、大島一嗣先生は転勤先の岡崎学園まで連絡してご迷惑をおかけしてしまいました。鈴木陸男先生へお電話したときのことです。電話口で開口一番「岡田さんお久しぶりです」と言ってもらって感激しました。私が高校生だった頃も鈴木先生は岡崎高校で教鞭をとられていたのですが、直接指導頂いたことはなかったので覚えていらっしやらないだろうと思っていたからです。

どうやら私と同じ安城市出身の（高54回ではなく）高14回の別の岡田さんという方がいらしたようです。私のことは記憶になかったようですが、総会で直接お話しして私の代のことでも思い出して頂けたようで何よりでした。

参加頂いた先生方はもちろん、生方はもちろん突然ご連絡させて頂いた先生方もご協力本当にありがとうございました。



筆者は左から2人目

高64回 鈴木 康啓

ある日会社のメールアドレスに、岡高OBであり、かつ会社の先輩であられる方より、「胃文化交流会参加へのお誘い」なるメールが届いた。本文を読めば、岡高OBで、（皆ご存知）味噌煮込みうどんの名店・山本屋に行ってみないかとの事。この猛暑の中に味噌煮込みうどんのお店が。気が進まない。しかし高校を卒業して以来、思い出せば岡高の先輩方とお話した記憶もない。偶にはそういう会に顔を出してみるか。そして参加させて

頂いた同会でお会いし、頗る仲良くして頂いた先輩方に誘われるがまま、今回初めて、首都圏段戸会に参加させて頂きました。

高校卒業以来会う機会がなかった同期と会話を交える度、如何に普段自分が接している世界が狭いかを実感すると共に、日常生活であつたら、下名の様な下っ端は決して気軽に話しかけることができない（話しかける機会もない）、種々業界の第一線でご活躍されておられる先輩方の深い知見に触れる度、今までこの会に出席しなかつた事を酷く悔やんだ。

最後に、本会でご登壇されておられた方が仰っていた、「客観的に見て」岡高OBは、他人と比べ、問題解決力に秀でていて「気がする」という言葉。他人と比較する事が良い訳では決していないが、今後仕事・プライベートで悩み立ち止まる事があっても、この言葉を思い出し、自分で自分を鼓舞したいと思料した。



筆者は右端

「首都圏段戸会」は愛知県立岡崎高等学校の首都圏同窓会です。
公式ホームページ <http://dandokai.o.oo7.jp/>

首都圏段戸会

検索

パソコンやスマートフォンが得意な方も、お子さんやお孫さんに操作を頼んで、一度ホームページを訪ねてみて下さい

第46回首都圏段戸会総会・懇親会出席者 (2018年10月開催)

(岡高同窓会長) 細井土夫	山田智男	(高28回) 酒井邦彦 藤井 哲
(岡高校長) 竹下裕隆	(高16回) 大山達雄 鈴木貞雄	(高29回) 嶋田 薫
(岡高教頭) 岩月迅美	鈴木弘恵	(高30回) 石川定雄 米津智徳
(恩師) 鈴木陸男 尾崎誠司	(高17回) 伊与田正彦 近藤哲宏	(高31回) 石田満理 岩間由紀
大島一嗣	竹嶋栄子 兵藤善之	高原正之
(高2・中51回) 青山敦夫	武藤隆子 山田博子	(高33回) 小出一典 鈴木祐子
(高3・併23回) 伊藤芳枝 宇津野隼千	(高18回) 石原荘介 伊藤博邦	山本守正
小澤一郎 加藤正義	川喜田隆司 清水久雄	(高34回) 板谷敏正 井上由美子
鏑木道子 久保雅之	高橋成宜 寺嶋 隆	岩崎陽子 鈴木宏一
高木次男 丹羽 鼎	幡本 裕 山内 恵	吉村玲子
米津勇美	(高19回) 安藤 昭 石樽直美	(高35回) 糸井真由美 小川美季
(高4・併24回) 鶴田日夫	岩瀬正紀 遠藤むつ子	渋谷禎則 菅 伸介
(高6回) 有馬弘政 長瀬けい子	岡部芳郎 近藤陽一	畑 茂樹 久永直人
(高7回) 市川 毅 近藤 衛	穴倉由美子 鈴木好則	(高38回) 柴田哲良 中西和幸
斎藤悦子 杉山 修	竹内由紀江 都築正行	桃井聖司
是津定利 高橋里恵子	時田和芳 中島邦子	(高41回) 立山秀利 中鉢朋子
永田綾子 羽谷 允	野澤信一 則竹千恵子	(高42回) 長野麻子
吹抜敬彦 村田與市	福島安史 福山 透	(高43回) 五十嵐妙
米津松美	丸山義雄 宮崎収兄	(高44回) 松尾直樹
(高8回) 小野勝巳 高橋道人	村木央明	(高45回) 牧野充浩
田中厚生	(高20回) 天野隆太郎 伊与田あさ子	(高46回) 大川 博 渡辺 悟
(高10回) 宇佐美忠利 山川肇爾	遠藤 昇	(高47回) 天野綾子 岡田 望
(高11回) 青木かゑ子 太田栄之	(高21回) 足立純一 阿知波茂樹	佐藤さおり 杉本いづみ
永田 宏 服部豊治	渥美忠男 内山田邦夫	(高50回) 鳥居福代
山崎宣典	小栗恵子 内藤良江	(高52回) 近藤佳子 清水雄太
(高12回) 稲垣早苗 神谷 保	兵藤幸治 山田俊文	(高53回) 辻内直子
鈴木紀夫 鶴田尚弘	(高22回) 上田洋子 酒井真知子	(高54回) 安藤康伸 石橋 亮
鶴田文男	高橋真理 中村賢治	加藤直也 岡田尚博
(高13回) 神道千秋 鈴木功一	程田さとる 渡辺嘉一	(高57回) 川口敦子
中 浩之 藤田訓弘	(高23回) 野々山浩	(高58回) 石川航己 岩間 亮
本多正之	(高25回) 明保治男 稲垣智子	(高60回) 本多健太郎
(高14回) 阿部完二 磯尾 進	戸田讓三 戸田妙子	(高61回) 鈴木貴之
磯村澄江 太田真澄	(高26回) 石橋容子 織田利彦	(高63回) 河原宏太 柳下柚子
金澤忠幸 糸田輝義	高橋芳子 内藤勝之	(高64回) 鈴木康啓 扶瀬聡史
笹瀬 修 長井佐紀子	日高克二	(高68回) 富田佳秀
中島綾子 中野元雄	(高27回) 沖 修司 長田光雄	(高70回) 阿部孝胤 平野利和
水谷鏡子	岸 洋平 下村修之	水野百合朱
(高15回) 杉浦輝雄 満江信之	平野元久 山崎正枝	

出席者合計 191名

シニアきらり ー女性が輝く社会のためにー

高18回 山内 恵

昨年三月まで専門のアメリカ史を軸に女性史やジェンダー論について、大学では講義やゼミを担当してきました。私の研究の原点にあるのが、女性として生きること、母親になること、そして女性にとって「母性」とはどのように意味を持つか、ということ。フェミニズム理論や女性史においてこのテーマをずっと問い続けています。

私をこのライフワークへとかりたてたのは二つの出会いがあったからです。一つは、今は亡き、附中・岡崎高校時代からの友が、1970年代のウーマンリブ運動に関わっていたこと。当時の私はおろかにもマスコミの言い分をそのままのみにし「ウーマンリブの闘士はブスでもない女たちのヒステリー集団」と誤解、リブ運動の真意を理解しようとしなかったこと。もう一つは姪が娘を出産して二ヶ月後に「良い母親になれない」と苦しんで自死したこと。私自身産後うつ体験者でありながら、死の直前まで悩みを聞いていたのに彼女を救うことができなかったのです。

二つの出逢いから重い課題を背負って42歳で大学に再入学。東京外国語大学に提出した博士論文を2008年に出版することもできました。テーマは「近代社会と母性」、私のライフワークがようや



ラドクリフ・カレッジにてギルマン研究者たちと (筆者は左端)

く形になりました。議論の核が、アメリカの20世紀転換期のギルマンというフェミニストの思想家の母性論です。1990年には国際ギルマン協会も設立され、私もそのメンバーの一人として、日本でのギルマン思想の普及に尽力した大正期の知識人たちについて発表する機会もありました。2015年のラドクリフ・カレッジで開催された国際会議では、資料のデジタル・データベース化によるギルマン研究の最前線を知ることでもできました。

現在の私の仕事ですが、ギルマン研究の次なるテーマ、ギルマンの平和思想をまとめること、住んでいる熊谷市の男女共同参画審議委員として参画条例策定のお手伝いや講演やセミナー講師としての啓蒙活動があります。近年は性的マイノリティなどジェンダーに関する話をする

チャレンジを楽しむ

高20回 神尾 由恵

機会をたくさんいただきました。私の研究者としての知識や体験が、女性が輝くために役立つならば、うれしく思います。

40年勤めた会社を7年前にリタイアし、セカンドライフをどう過ごすかと思える間もなく、ペット産業に首を突っ込むことに。日本のペット事情を知り、ドイツの事情を知ると、空前のペットブームなのに、ペットオーナーは、ただただ「可愛い」だけで、「犬猫のことを如何に知らないか」思い知らされる。そして、オーナーに見放され、虐待・放置等により、殺処分されている現実に直面する。

「ペットも一つの命」命に対する責任がある。何とかしなくては！

ペットの保護とセカンドオーナーへの引渡しをするNPO法人「地球にいきもの」を立ち上げる。

まずは、私の母と暮らしていたシーズーを保護し、次のオーナー探しをする。母は《認知症》のために世話が出来なくなっていた。残念ながら、シーズーは14歳と高齢であったためにオーナーが見つからず、病気になる、旅立ってしまった。まい合同墓に入った。



卒業後50年目の「大人の修学旅行」にて (筆者は最前左端 (傘を持っている))

「うらやす市民大学」にペット講座を提案し、コーディネーターをして2年になる。住まいのマンションにも多くのペットが一緒に暮らしているが、オーナーは本当に終生飼育の覚悟があるのか疑問である。ペット講座の受講生が期待より少ない。種類ごとの特徴、遺伝のこと、病気のこと、自然災害時の対応のこと等々、知らなければいけないことがたくさんある。「本当にご存知ですか？」と一人一人に尋ねたい。

私のこうした活動がどれだけペットオーナーに届くかは知れないが、一歩一歩前に進めていくつもりだ。私は次の言葉信じて生きていきたい。

「二人の百歩より、百人の一步」

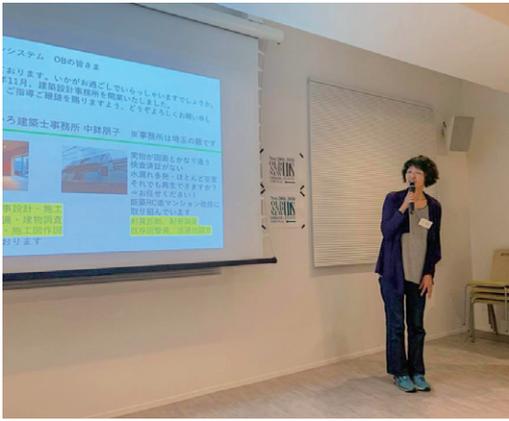
一度、身近のペットとオーナーを見てください。そこから何かが始まります。

キャリアアップ

高41回 中鉢 朋子

私は1997年に社会に出て、2017年秋に建築士事務所を設立し、建築設計と、リフォーム工事の仕事をしています。中国文学の研究者だった父の影響で、本が好きな子供でしたが、岡高では苦手な理科系科目を教わりたいたいと思い、理系クラスに入りました。そのおかげで、大学では工学部の建築学科に入学できたことが、現在につながっています。

新卒で建築設計事務所に就職したものの、その職場では、女性を建築現場での仕事には派遣しない方針でした。建築現場を知らずに設計図を描いても限界があり、現場を知るチャンスを窺っていたところ、運良く？リストラの対象となつて、3年で転職となりました。



仕事内容のプレゼンテーションをしている筆者

転職先の不動産会社では、鉄筋コンクリート造の建物新築工事の設計を担当することができました。総工費4億円で、狭い傾斜地を利用して建てる難工事でした。建築現場での経験を含め、一連の実務を覚えたことは、大きな収穫でした。

その後、建物を改修・販売する事業の工事担当になりました。築20年前後の鉄筋コンクリート造の建物4棟で、工事前の調査や水漏れ、排水不良などへの対処を経験しました。

45歳で独立を志して会社勤めを辞めてからは、試行錯誤の連続でした。売上と経費のバランスが取れず、2年半ほど収入がない状態が続きました。試験的に始めた、知人との共同経営方式をやめ、2017年秋に個人事業として再スタートしました。それからは順調に売上を伸ばし、経費も最小に抑えて、仕事を軌道に乗せることができました。

前職の取引先から継続して設計の仕事をお願いしたこと、首都圏段戸会の皆さまに助けられたこと。一時期路面店舗を借りて、チラシをガラス窓に貼って宣伝をしたことで、お客様とご縁を頂けたこと。いろいろなご縁が次第に積み重なって、仕事に恵まれるようになってきました。

現在は、コンクリート造の古い共同住宅の、建物全体の改修設計の仕事にも取り組んでいます。社会に多くの課題があるなか、建物を建てたり改修するだけでなく、建物の使い方も含めて提案していきたい日々考えています。

世話人リレーエッセイ

— 会員担当 —

高35回 菅 伸介

会員担当の主な業務は首都圏段戸会会員の名簿データの管理です。一昨年に制定した「個人情報保護方針」に従い、情報漏洩・不適切な使用・データ紛失などが決して起こらないよう万全の注意を払ってデータベースを維持しています。年二回の会報の郵送や総会・懇親会の受付管理はこの情報に基づいて行っています。会員の個人情報の提供は、同期会の開催など首都圏段戸会の目的に沿う場合にのみ世話人に対して実施しています。

会員の連絡先を把握し、適切に案内をお届けすることは同窓会の生命線です。転居された場合は必ず新住所を連絡いただけるようお願いしています。住所等の登録は、総会・懇親会出欠回答ハガキへの記入以外に首都圏段戸会ホームページから行っていたこともできます。なお、岡崎高校内に事務局を置く「岡崎高校同窓会」と本会は、名簿を独立に管理しています。転居等の連絡は、お手数ですが岡崎高校同窓会と首都圏段戸会の両方をお願いします。

パソコンや携帯電話のメールアドレスをお持ちの方は是非とも首都圏段戸会にご登録ください。会報発行のタイミングに縛られることなく各種の情報を配信しています。ホームページや電子メールの積極的活用は首都圏段戸会の大きな特徴



会員担当が集まって総会・懇親会の出欠回答ハガキを集計しています。左から鈴木さん(高61回)、菅(高35回)、杉本さん(高47回)です。

だと思っています。

今後も、個人情報の管理に留意しつつ、同窓会活動を支える名簿の管理を着実に行っていきます。会員各位のご理解とご協力をいただければ幸いです。

堅い話になってしまったので最後にクイズです。解答は会報のどこかにあります。

第一問…首都圏段戸会会員で人数の多い苗字のトップスリーは以下のどれでしょうか？

- A 一位鈴木、二位杉浦、三位近藤
- B 一位鈴木、二位加藤、三位太田
- C 一位杉浦、二位鈴木、三位山本

第二問…現時点では首都圏段戸会の登録

会員の最年長と最年少の年齢差は何歳でしょうか？

- A 七十五歳、B 七十八歳、C 八十二歳

2018年度 オープンキャンパス開催報告

高68回 深澤 和毅

8月2日(木)に東大のオープンキャンパスツアーが開催されました。

食堂や生協の売店も通りつつ、1時間半ほどかけて本郷キャンパス・弥生キャンパスを一周した後、工学部2号館の教室にて懇談会が行われました。真夏の炎天下を歩きまわった後だったので、教室でエアコンを使えたのは幸いでした。まずは1時間ほど全体での質疑応答を行い、後に昼食をとりながら文理に分かれてさらに1時間ほど高校生と卒業生の間で懇談を行いました。高校生からは東大での学生生活や東大に入って良かったこと、受験時代のことや模試・成績のことなど、積極的に質問がありました。卒業生側の応答にも熱が入り、また、卒業生は工学部に農学部、法学部に経済学部、理学部に後期教養学部、さらには一浪した同期から理Ⅲ生や理Ⅰ生と幅広く集まってくれたこともあり、高校生たちは様々な角度から東大の魅力や雰囲気、東大での生活などを聞いたのではないかと思います。高校生と卒業生の間での懇談はとても盛り上がり、当初予定していた時間を軽く30分ほどオーバーしてしまうほどでした。卒業生側からしてもそれでもまだ話し足りないぐらいで、実際、さらに話を聞きたいという高校生もいて、場所を移して卒業生数人とさらに受験勉強の話などをしました。他の高校生たちの中には、解散後に食堂で学食を食べに行った生徒もいたようです。卒業生たちからは、後輩たちと会話することで、なんだか自分達の高校時代を思い出し、とても懐かし



オープンキャンパス参加の現役岡高生

い思いがしたという声を聞きました。後に、引率でいらしていた三井先生から伺った話によると、懇談会後の生徒たちからは「来て良かった」「勉強して東大に入る」などといった声が聞かれたようで、今回のオープンキャンパスツアーが意味あるものであった気がして大変嬉しく思いました。

今回のオープンキャンパスツアーを機に、少しでも多くの後輩たちが東大を目指し、合格を勝ち取ってくれたとしたら今回のツアーに携わったものとしても、また、一先輩としても嬉しい限りです。

段戸サークル活動報告 段戸音楽会ミニコンサート

高58回 石川 航己

総会での演奏でお気づきの方もいらっしゃると思いますが、段戸音楽会は普通の音楽会と異なり、クラシックありポッ

プスあり邦楽ありのジャンル楽器無制限の音楽愛好家集団です。総会では毎年3曲程度の演奏を行なっていますが、それだけではメンバーの音楽に対する欲求を満たすことができません。そこで、段戸音楽会では、メンバーそれぞれのパフォーマンスを制限なく発揮する場として、「ミニコンサート」と称した半日の音楽イベントを開催しています。

ミニコンサートでは、バンド演奏や弾き語り、バンジョー、尺八、お琴、フルート演奏、フラダンス等々それぞれが、とっておきのパフォーマンスを披露します。小生のような素人演奏はもちろん、桃井聖司さんや柳下柚子さんのようなプロの演奏もあり、演奏しなくても聴きごたえ十分な内容になっております。6回目を迎えた今回は、なんと岡崎混声合唱団東京支部の皆様も参加され、その美声を会場に響かせました。若者のパワーな



筆者は右から3人目

段戸サークルのお問合せ先

皆さまの参加をお待ちしています！

「段戸囲碁会」 幹事：藤田 訓弘 (高13回)
kfujita@muc.biglobe.ne.jp

「段戸音楽会」 幹事：石川 航己 (高58回)
koki.ishikawa.49@gmail.com

*本ページに活動報告が掲載されています。

「段戸句会」 幹事：野村 親信 (高16回)
nomurac@jcom.home.ne.jp

「段戸山の会」 幹事：満江 信之 (高15回)
nmitsue@ae.auone-net.jp

「胃文化交流会」 幹事：都築 正行 (高19回)
masa_tsuzuki2000@yahoo.co.jp

【クイズ解答】 第一問 A 第二問 B

のか、合唱のもつ迫力なのか、生で、しかも間近で、聴いたあの感じは小生の文章力ではとても表現できません。小生は、普段は楽器をどう鳴らすかばかり考えているのですが、この時ばかりは、合唱や歌もいいなあと思ってしまいました。自分と違う音楽の楽しみ方に触れられるのもミニコンサートの良さかもしれません。このミニコンサートは、元々、ご飯とお酒を楽しみながらちよっと演奏する新年会のおまけ企画のつもりだったので、回を重ねるうちに参加者が増え、演奏内容が充実して、気がつくところのような、「ミニコンサート」になっていました。これからも、多くの人が音楽を楽しめる場として、段戸音楽会を今後も続けていきたいです。(ミニコンサート参加希望もしくは総会の演奏希望の方は、お近くの段戸音楽会関係者まで連絡お願いします。求むベース！)

2018年度会計報告・監査報告

会計及び会計監査の方々のご尽力により、2018年度 会計報告・監査報告がまとまりましたので、ご報告いたします。
 なお、会計報告・監査報告は、次回首都圏段戸会総会（2019年10月26日開催予定）において、会員の皆様の承認を経て確定します。

貸借対照表

2018年12月31日現在		(単位：円)	
科 目	金 額		
I 資産の部			
通常貯金	1,845,712		
資産合計		1,845,712	
II 負債の部			
未払金	0		
負債合計		0	
III 正味財産の部			
正味財産		1,845,712	
負債及び正味財産合計		1,845,712	

収支計算書

2018年1月1日から2018年12月31日まで		(単位：円)	
科 目	金 額		
I 収入の部			
10月総会懇親会会費収入	978,000		
10月総会時運営協力金	322,000		
運営協力金	1,095,000		
寄付金	40,000		
受取利息	12		
当期収入合計		2,435,012	
II 支出の部			
10月総会懇親会費用	1,385,776		
会報費用	972,018		
世話人会費	86,100		
オープンキャンパス	6,880		
ホームページ維持費	5,832		
後納郵便料	40,194		
経費振込手数料	3,126		
運営協力金振込手数料	38,904		
同窓会名簿	6,580		
当期支出合計		2,545,410	
当期収支差額			-110,398
前期繰越収支差額			1,956,110
次期繰越収支差額			1,845,712

監査報告書

首都圏段戸会の2018年度（自2018年1月1日 至2018年12月31日）の計算書類は適正かつ正確であることを確認いたしました。

2019年1月31日

会計監査 辻村 貴典

会計監査 戸田 謙三

2019年 首都圏段戸会
世話人名簿

- (高2回) 服部 登
- (高3回) 丹羽 鼎
- (高6回) 有馬 弘政
- (高7回) 是津 定利
- (高8回) 杉浦 嘉久
- 田中 厚生 広報
- (高9回) 岡田 敏夫
- (高10回) 宇佐美 忠利
- (高11回) 太田 栄之
- 永田 宏
- (高12回) 鶴田 文男
- 成瀬 徹
- (高13回) 中 浩之
- (高14回) 磯尾 進
- 水谷 鏡子
- (高15回) 神谷 国広
- 満江 信之
- (高16回) 横井 昭親
- (高17回) 伊與田 正彦
- (高18回) 伊藤 博邦
- 音部 昌宏
- 清水 久雄
- 山内 恵
- (高19回) 都築 正行 会長・情報
- 福山 透 企画
- (高20回) 天野 隆太郎

- 辻村 貴典 会計監査
- (高21回) 小栗 恵子
- 山田 俊文
- (高22回) 上田 洋子 副会長・書記・広報
- 中村 賢治
- (高23回) 野々山 浩 会計
- (高25回) 戸田 謙三 会計監査
- (高26回) 織田 利彦 事務局長・企画・広報
- (高27回) 長田 光雄 会計
- 岸 洋平 会計
- 山崎 正枝
- (高28回) 酒井 邦彦
- (高30回) 米津 智徳
- (高31回) 石田 満理
- 高原 正之 企画
- 岩間 由紀 企画
- (高33回) 小出 一典 企画
- 鈴木 祐子
- (高34回) 板谷 敏正 副事務局長・企画・情報
- 井上由美子 副事務局長・企画
- (高35回) 糸井真由美
- 小川 美季 広報
- 菅 伸介 会員
- (高36回) 平松 理生
- (高38回) 中西 和幸 企画

- (高40回) 大田 武 会計
- (高41回) 中鉢 朋子 書記
- (高42回) 長野 麻子 広報
- (高43回) 五十嵐 妙
- (高44回) 松尾 直樹 企画
- (高45回) 筒井 貴之 情報
- 西浦 瑞恵
- (高46回) 朝岡 大輔
- 大川 博 広報
- (高47回) 杉本いづみ 会員
- (高50回) 鳥居 福代 情報
- (高52回) 清水 雄太 情報
- 近藤 佳子 広報
- (高53回) 石井 貴大
- 辻内 直子
- (高54回) 安藤 康伸
- 岡田 尚博 広報
- 加藤 直也 広報
- (高57回) 川口 敦己 企画
- (高58回) 石川 航 企画
- 岩間 亮
- (高59回) 嶋田 亘
- (高60回) 本多 健太郎 会員
- (高61回) 鈴木 貴之 会員
- 中原 槇子
- (高62回) 粟津 文香
- (高63回) 河原 宏太
- 吉兼 峻史
- (高64回) 鈴木 康啓

編集後記

いろいろなできごとのあった平成の時代が今月で幕を閉じます。今回は平成最後の会報発行となります。さて、本号ではまず昨年行われた総会・懇親会の報告をさせていただきます。総会が関心を読んだのはシニア層の野々山さんが司会にチャレンジされたこと、ご自身から「おじさん新司会者」として寄稿いただきました。次回以降が楽しみです。

会報では生きがいを目指し、なりたい自分を求め、新しい世界に飛び出そうか、と考えている方のために「キャリアアップ」「シニアきらり」を企画させていただきました。今回は元気に活動されている3名の女性の方々から寄稿いただきました。飛び出した動機や年齢はさまざまですが、皆様のご参考になれば幸いです。また、「リレエッセイ」は会員担当の皆さんに執筆いただきました。毎回会報が皆様にお届けされるのは会員担当の方々のご尽力の賜物です。

なお、新会長に福山さんが就任されました。福山さんは若き日に米国に飛び出し、学位取得とともに米国と日本の大学で教鞭をとられました。退官後も学会活動、海外出張、畑仕事にいそむ傍ら、首都圏段戸会H.P.の管理をされており、まさにシニアチャレンジャーです。(織田)